

タンザニアにおける商業銀行貸付と金利動向

高山 晃 郎

はじめに

東アフリカ地域のタンザニアは、現在、多くの金融システム改革を実施している⁽¹⁾。近年、タンザニア経済は大きく進展している⁽²⁾。しかしながら、タンザニアでは、自国通貨と外国通貨の両方が流通することにより、他の発展途上国とは異なる問題に直面している。タンザニア中央銀行は、ドル化を削減する方向の政策を打ち出している⁽³⁾。また金融政策においては、貨幣の数量面でのコントロールに加えて、課題となっている金利面でのコントロールに重点を置いている⁽⁴⁾。本論文の目的は、タンザニアの金融市場の構造と特徴を明らかにすることである。というのは、将来的にサブサハラ・アフリカ地域の各国金融市場の比較分析を行いたいと考えている。サブサハラ・アフリカ地域の各国金融市場の構造と特徴を明らかにすることにより、すでに多くの研究蓄積のあるアジア金融市場との対比が可能になると考えている⁽⁵⁾。

まず簡単にタンザニア経済を整理しておこう。首都はドドマである。但し実質的な首都はダルエスサラームである。公用語は英語である。面積は日本の約2.5倍であり、人口は5,182万人である⁽⁶⁾。人口構成は、0歳から14歳以下は46.1%であり、15歳以上65歳未満は51.3%、そして65歳以上は2.6%である⁽⁷⁾。識字率は73.5%である⁽⁸⁾。通貨はタンザニアシリングである。銀行口座保有率

(1) Collier and Gunning [1991] は以下のように述べている。「タンザニアの金融自由化は銀行の預金と貸付において金利の上昇をもたらした」(Collier and Gunning [1991], p. 533)。「タンザニアの金融システムを考えれば金融自由化(金利上昇の点において)は単にインフレをもたらすことになる」(Collier and Gunning [1991], p. 537)。また Hassine and Zeufack [2015] は次のように述べている。「タンザニアは、注目すべき経済成長と対外ショックに対しての力強い回復という点において、サブサハラ・アフリカ地域の経済パフォーマンスのモデルとして見られている」(Hassine and Zeufack [2015], p. 2)。

(2) Putterman [1995] は、「1990年代初期のタンザニアは明白に、10年前とは異なっていた」としている(Putterman [1995], p. 320)。

(3) International Monetary Fund [2016], *IMF Country Report No. 16/253*, July, p. 7.

(4) International Monetary Fund [2016], *IMF Country Report No. 16/253*, July, p. 7.

(5) Agrawal, Ahmed, Mered and Nord [1993] は、サブサハラ・アフリカ地域の中でのタンザニアの位置付けについて、以下のように述べている。「長引いた経済下降の10年間の後で、タンザニアは、1986年の範囲の広い構造調整プログラムに参加したサブサハラ・アフリカ地域のひとつの例である」(Agrawal, Ahmed, Mered and Nord [1993], p. 1)。

(6) 外務省HPを利用した。人口は2014年。

(7) African Development Bank Group, African Union and Economic Commission for Africa [2019], *African Statistical Yearbook 2019*, p. 432. 人口構成は2018年。

は47%である⁽⁹⁾。GDPを支出面から見た場合、個人消費の占める割合は62.6%である⁽¹⁰⁾。主要な輸出品目は金やコーヒーである⁽¹¹⁾。主要な輸入品目は石油や機械類等である。また主な貿易相手国はスイスと中国である⁽¹²⁾。

本論文の構成は以下の通りである。第1章は、貯蓄・投資バランスに着目する。そして経常収支赤字ファイナンスについて、資本収支の動向から考察する。タンザニアでは、外国からの直接投資は国内経済に大きな影響を与えている。第2章は、本国通貨と外国通貨の両方の通貨が流通していることを踏まえながら、商業銀行のバランスシートの構造を考察する。同様に若干だが、中央銀行のバランスシートの構造にも言及する。商業銀行は製造業に対して十分な貸付を実施している。開発経済学の観点からは、製造業の進展は重要である。第3章は、本国通貨と外国通貨の両方の金利について考察する。預金金利と貸付金利の両方について、本国通貨と外国通貨との間に、どのような関係があるのかを統計的に迫る。本国通貨と外国通貨の預金金利において、本国通貨から外国通貨に影響を与えていることが示される。最後はまとめと結論である。

第1章 国際収支と貯蓄・投資バランスの動向

表1と図1は、IMFの資料から作成したタンザニアの国際収支と貯蓄・投資バランスの動向である⁽¹³⁾。表1の国際収支表から、タンザニアの経常収支は赤字である⁽¹⁴⁾。輸出の主要品目は農産物と金である⁽¹⁵⁾。輸入の主要品目は石油である。所得収支はマイナスを計上している。外国から、多くの投資がなされていることを示している。経常移転収支はプラスを計上している。外国から、多くの労働者送金がなされていることを示している。タンザニアの資本収支から、外国からの直接投資による資本流入が多いことが分かる。また公的部門からの資本流入も多い。商業銀行貸付の数値は、直接投資に比較して小さい。また図1の貯蓄・投資バランスの動向から、傾向的には国内総貯蓄が国内総投資を下回っている。対GDP比で見た貯蓄と投資の数値は、近年において大きくなっていない⁽¹⁶⁾。また貯蓄率と投資率は大きく乖離していない⁽¹⁷⁾。もし貯蓄率と投資率が大きく

(8) African Development Bank Group, African Union and Economic Commission for Africa [2019], *African Statistical Yearbook 2019*, p. 432. 識字率は2016年。

(9) Demircuc-Kunt, A., L. Klapper, D. Singer, S. Ansar and J. Hess [2017], *The Global Findex Database 2017*, p. 126. 銀行口座保有率は2017年。

(10) UNCTAD, *General Profile* を参照した。2017年の数値。

(11) Mahdi [2012] はコーヒーに関して次のように記述している。「適切なマーケティングとインセンティブが存在する時、市場はコーヒー生産者とコーヒー購入者の両方にとって、うまく機能する」(Mahdi [2012], p. 23)。

(12) 輸出及び輸入品目、主な貿易相手国に関しては外務省HPを利用した。

(13) 表1の国際収支表について、誤差脱漏の数値が年により大きくなっている。この点には注意が必要である。

(14) Sepehri [1992] は、国際収支の調整について、次のように述べている。「タンザニア経済の難しさとその原因が多く研究されている一方で、これらの研究は主に記述的なものである。そして特に、為替レート、産出高及び金融残高が、国際収支の調整に果たす役割を考慮した定量的な研究はない」(Sepehri [1992], p. 289)。また Rwegasira [1987] は以下のように述べている。「ケニアとタンザニアの2つの経済は、国際貿易と農業部門に高く依存している点において、幅広く同じような構造をしている」(Rwegasira [1987], p. 1321)。

表1 国際収支の動向（単位：100万ドル）

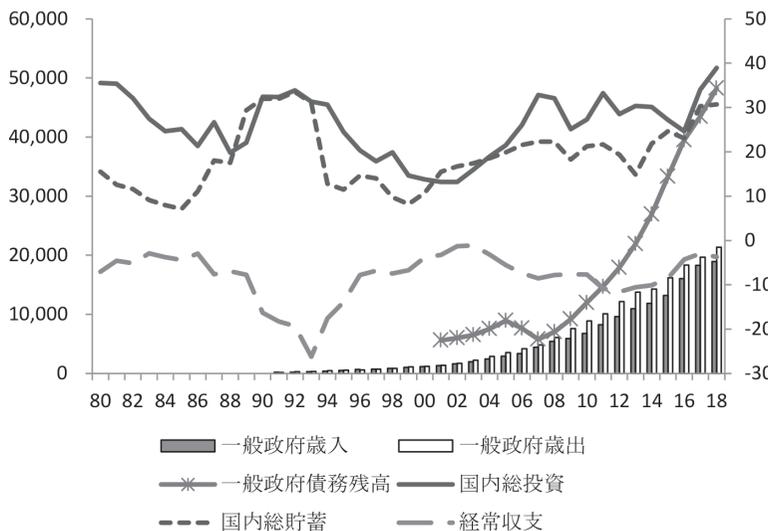
	2013	2014	2015	2016	2017	2018
経常収支	-4,985	-4,169	-3,844	-4,417	-4,627	-4,941
貿易収支	-5,728	-4,998	-4,449	-4,980	-5,511	-5,986
輸出	5,619	5,661	5,750	6,169	6,785	7,290
伝統的な農作物	836	908	927	915	1,026	1,101
金	1,747	1,266	1,204	1,240	1,256	1,268
その他	3,036	3,488	3,619	4,014	4,503	4,921
輸入	-11,347	-10,659	-10,199	-11,149	-12,296	-13,276
石油	-4,209	-3,063	-2,492	-2,616	-3,222	-3,427
サービス収支	648	971	1,051	1,009	1,252	1,437
所得収支	-648	-717	-840	-901	-957	-1,012
公的債務の金利	-128	-228	-289	-313	-325	-378
経常移転収支	744	575	394	455	589	620
公的部門	439	277	59	145	172	176
投資収支	3,947	3,838	3,382	4,344	4,628	4,988
直接投資	2,066	2,003	2,042	2,041	2,206	2,393
公的部門	1,404	1,431	869	1,793	1,731	1,975
商業銀行	90	-27	21	53	100	63
その他民間資本流入	388	432	450	457	590	556
その他資本収支	748	520	471	589	557	568
誤差脱漏	513	-289	0	0	0	0
(参考) 外貨準備残高	4,638	4,285	4,238	4,676	5,145	5,670

(注) 数値は年度ベース。2015年以降は予測値。外貨準備については、「増減」の数値ではなく、残高の数値である。中央銀行が外貨準備を保有している。

(出所) International Monetary Fund [2016], *IMF Country Report No. 16/253*, July, p. 37 より作成。

- (15) Rollo [2012] はタンザニアの農業について次のように記述している。「タンザニアでは、大部分のサブサハラ・アフリカ地域のように、依然として農業部門が雇用の主要な源であり、農業はタンザニアのGDPの3分の1を構成している」(Rollo [2012], p. 3)。Iimi, Humphreys and Melibaeva [2015b] は、「タンザニアは伝統的に農業に大きく依存している」としている (Iimi, Humphreys and Melibaeva [2015b], p. 5)。Ahmed, Diffenbaugh, Hertel and Martin [2012] は、気候変動との関係において、他の文献も参考にしながら、次のように述べている。「タンザニアの特徴として、気候変動が大きいので、穀物産出量の変動が大きくなる。この論文では気候変動によるタンザニアでの価格の反応と所得要因を検証する」(Ahmed, Diffenbaugh, Hertel and Martin [2012], p. 3)。さらにBaffes, Kshirsagar and Mitchell [2015] は、タンザニアの主要作物であるメイズについて、次のように記述している。「輸出禁止は、地方のメイズ市場における長期均衡の調整を遅らせる。気候ショックと収穫の循環は調整過程に影響を与える。そして気候ショックと収穫の循環は短期の価格変動の要因である」(Baffes, Kshirsagar and Mitchell [2015], p. 1)。「長期においてタンザニアのメイズ価格はナイロビの価格動向に影響される」(Baffes, Kshirsagar and Mitchell [2015], p. 18)。Gerrard and Roe [1983] は、以下のように記述している。「メイズ、米、小麦は、この順序において、タンザニアで消費される3つの主要な穀物である」(Gerrard and Roe [1983], p. 110)。

図1 貯蓄・投資バランスの推移、及び一般政府財政の歳入と歳出の動向
(単位：10億タンザニアシリング、%)



(注) 政府は一般政府の数値。一般政府歳入、一般政府歳出、一般政府債務残高は左軸。国内総投資、国内総貯蓄、経常収支は右軸。国内総投資、国内総貯蓄、経常収支は対GDP比。IMFの2017年のデータベースと2019年のそれとでは、数値に若干の相違がある。

(出所) International Monetary Fund, *World Economic Outlook Database*, October 2017より作成。国内総貯蓄と国内総投資の2017年以降の数値は、International Monetary Fund, *World Economic Outlook Database*, October 2019より作成。また一般政府歳入、一般政府歳出、一般政府債務残高、経常収支の2016年以降の数値は、International Monetary Fund, *World Economic Outlook Database*, October 2019より作成。

乖離していた場合は、金融グローバル化の影響を受けているという説明ができよう⁽¹⁶⁾。理論的には、国内総貯蓄から国内総投資を引いたものは経常収支に等しい。経常収支は資本収支と外貨準備増減の合計に等しい。恒等式である。また同様に経常収支は対外純資産の増減に等しい。上記の理論的な枠組みに沿う形で、再度、表1と図1を見てみよう⁽¹⁹⁾。日本銀行国際収支統計研究会〔2000〕で指摘されているように、経常収支赤字は、対外資産の取り崩し、もしくは国内居住者による外国居住者からの負債の増加という形でファイナンスが行われる。タンザニアの例では、経常収支赤字は、外国からの直接投資と公的部門による資本流入によりファイナンスされている。外国居住者は

(16) 発展途上国の多くの国では、貯蓄率と投資率の数値は、年々に大きくなっている。

(17) 貯蓄率と投資率の乖離の意味については、河合〔1994〕を参照した(河合〔1994〕, 26頁)。

(18) ルワンダでは、貯蓄率と投資率は、近年において大きく乖離している。すなわち、ルワンダは金融グローバル化の影響を強く受けている。

(19) ここでの理論的な枠組みについては、日本銀行国際収支統計研究会〔2000〕の記述に依拠した形で、本論文の研究対象であるタンザニアについて考察した(日本銀行国際収支統計研究会〔2000〕, 76-78頁)。

直接投資の収益性の高さに着目しているのであろう。また、国内金利の推移について、同様に日本銀行国際収支統計研究会〔2000〕は、以下のように述べている。「資本の生産性上昇によりもたらされる国内投資の自立的増加がそれに見合う国内貯蓄の増加で埋められなければ、金利は上昇傾向をたどることになります。また、国内貯蓄を上回る投資の超過分は、経常収支の赤字に反映され、さらにその赤字分は、海外の金利に比べて相対的に上昇した国内金利が誘因となって、海外からの資本流入によってファイナンスされると考えるのが、一般的なシナリオです」⁽²⁰⁾。タンザニアでは国内総貯蓄は国内総投資よりも小さい。上記の記述に照らせば、タンザニアの国内金利の上昇が予測される。しかしながら、外国からの資本流入の多くが、収益性の高さからの直接投資であるタンザニアの場合にも、上記の記述は妥当しているのだろうか。

ここでは上述の考察に関連した追加的な資料として、直接投資と為替相場の動向を示しておきたい⁽²¹⁾。図2は、外国からの直接投資が国内経済に与える影響の大きさを示している⁽²²⁾。図2から、タンザニアでは特に2000年以降から、外国からの直接投資が国内経済に大きな影響を与えていることが分かる。2017年において、対GDP比で見た直接投資残高は36.7%に達している。直接投資の国内経済への影響の大きさは、先程の国際収支表の資本収支項目にあらわれた直接投資の大きさと整合的である。次に図表は掲載していないが、タンザニアの為替相場の動向にも目を配ろう⁽²³⁾。対ドル相場で見たタンザニアシリングは減価傾向にある⁽²⁴⁾。このことは、上述した経常収支赤字のファイナンスと貯蓄・投資バランスとの関連部分に照らすと、外国居住者による為替相場の予測というものは、タンザニアへの国際投資の要因にはなり得ないことを示している。

²⁰ 日本銀行国際収支統計研究会〔2000〕, 77頁。

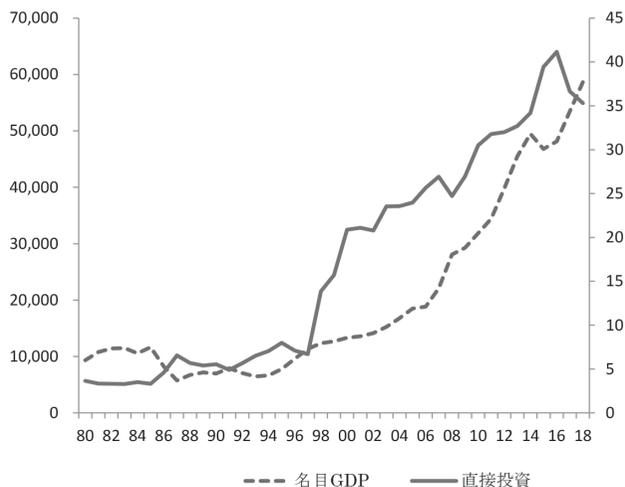
²¹ その他のタンザニア経済の特徴について、IMFのカントリーレポートを利用して幾つかの点を列挙しておきたい。第1に、インフラの整備についてである。全体的なインフラ整備の状態は、東アフリカ共同体（ケニア、ウガンダ、ルワンダ、タンザニア、ブルンジ、南スーダン）の数値と比較して、タンザニアの数値は低い（東アフリカ共同体3.5、タンザニア3.1）。インフラ整備状況の指数の計算は世界銀行により行われている。同様に水道（東アフリカ共同体67、タンザニア53）や道路（東アフリカ共同体3.4、タンザニア3）に関して、タンザニアの指数は東アフリカ共同体のそれよりも低くなっている（International Monetary Fund [2016], *IMF Country Report No. 16/253*, July, p. 8）。第2に、所得レベルと政府収入についてである。所得レベルから見た場合に税収が低い。政府の税金の制度に問題があるようである（International Monetary Fund [2016], *IMF Country Report No. 16/253*, July, p. 30）。第3に、政府の資本支出についてである。タンザニアの政府資本支出は、対GDP比で見た場合に東アフリカ共同体の平均値を下回っている（International Monetary Fund [2016], *IMF Country Report No. 16/253*, July, p. 15）。

²² Neerso [1974]は以下のように述べている。「しかし、その主要な目的は外国の企業に対して課税を行うことである」（Neerso [1974], p. 143）。「タンザニアは、外国からの競争に対しての保護から離れて、投資家にインセンティブを供給しない」（Neerso [1974], p. 143）。

²³ Nyoni [1998]は為替相場について次のように述べている。「実質為替相場の決定の分析において、（中略）長期の実質為替相場の重要な決定要因は、貿易の拡大、為替規制、政府支出、外国援助である」（Nyoni [1998], p. 1239）。さらにKaufmann and O'Connell [1999]は以下のように述べている。「外国為替のブラックマーケットは、国内資産から外国資産への転換における制限に反応して生まれた」（Kaufmann and O'Connell [1999], p. 2）。「対外調整の重荷によりあらわれる困難は、総需要に影響を与える政策もしくは為替相場そのものよりも為替規制とファイナンスの譲歩に置かれる」（Kaufmann and O'Connell [1999], p. 6）。

²⁴ Bank of Tanzania [2017], *Tanzania Financial Stability Report*, March, p. 4

図2 直接投資が国内経済に与える影響の程度と名目GDPの推移
(単位：100万ドル，%)



(注) 直接投資は外国からの流入でストックデータ。名目GDPは左軸。直接投資は対GDP比(右軸)。2018年の数値は推定値。
(出所) UNCTADSTATより作成。

第2章 間接金融型の金融システムと商業銀行

タンザニアの銀行部門について見ていこう。銀行部門には、商業銀行、開発金融機関、マイクロファイナンス銀行、コミュニティ銀行、モーゲージ会社がある⁽²⁵⁾。2016年において、商業銀行の数は38である。開発金融機関は2であり、同様にマイクロファイナンス銀行は4である。コミュニティ銀行とモーゲージ会社は、それぞれ、12と3である。上記各金融機関の保有する資産の割合を見ると、2016年6月時点において、銀行部門全体に占める商業銀行の保有資産は94.3%である⁽²⁶⁾。開発金融機関は2.9%であり、マイクロファイナンス銀行は0.5%である。コミュニティ銀行は2.2%である。タンザニアは、商業銀行が優位な間接金融型の金融システムである。またタンザニアの金融システムの特徴として、次の4つを指摘したい。第1に、市場支配率についてである。4つの大きい銀行が占める割合は、資産は48.09%、貸付は48.90%、そして預金は49.16%という大きい数値になっている⁽²⁷⁾。第2に、地場商業銀行と外国銀行の共存についてである。資産の市場占有率では、地場商業銀行は56.36%であり、外国銀行は43.64%である⁽²⁸⁾。タンザニアにおける外国銀行のプレゼンスの高さを示している。また負債全体に占める自国通貨預金の割合は56.49%である⁽²⁹⁾。同様に外国通貨預金の割合は28.79%である。第3に、上記の「第2に」にも関連することだが、中央銀行の資産構造と負債構造の特徴についてである。タンザニア国内の外国銀行の役割の大きさにより、国内において外国通貨が流通している。ということは、国内における金融危機の発生時には、タンザニア中央銀行は外国通貨での対応を迫られることになるだろう。タンザニア中央銀行は多くの外国通貨を保有している。中央銀行資産全体に占める外国通貨の割合は71.0%である⁽³⁰⁾。また同様に、負債構造にも特徴がある。金融システムの安定性は政府の意図するところである。政

府は中央銀行に多くの預金を置いている⁽³¹⁾。中央銀行負債全体に占める政府預金は23.0%である。第4に、モバイルを利用した支払の増加についてである⁽³²⁾。登録アカウント数は、2012年12月は26,871,176だったが、2016年12月には71,245,336となっている。少なくとも過去4年間の間に約2.7倍に急速に増加している。実際に稼働しているアカウント数は、2012年12月の7,872,749から2016年12月には17,025,685になっている。取引量と取引額についても見てみよう。取引量は、2012年12月は546,732,134であったが、2016年12月は1,676,997,520となっている。取引額も同様に、2012年12月の17兆4,077億3,000万タンザニアシリングから2016年12月の59兆4,253億9,000万タンザニアシリングと約3.4倍に増加している。モバイルによる支払では、個人はお金を代理店に預ける必要がある。代理店の数を見てみると、2012年12月の97,613から2016年12月の495,047と大きく増加している。タンザニアには、5つのモバイルのサービスを提供している会社がある（M-Pesa, Airtel Money, Tigo Pesa, Ezy Pesa, Halopesa）⁽³³⁾。

⁽²⁵⁾ Bank of Tanzania [2016], Directorate of Banking Supervision, *Annual Report 2016*, p. 1. タンザニアの金融機関名は以下のとおりである。AccessBank (Tanzania) Limited, African Banking Corporation (T) Limited, Akiba Commercial Bank Limited, Amana Bank Limited, Azania Bank Limited, Bank M (Tanzania) Limited, Bank of Africa Tanzania Limited, Bank of Baroda Tanzania Limited, Bank of India(Tanzania) Limited, Barclays Bank (T) Limited, Canara Bank (Tanzania) Limited, China Commercial Bank Limited, Citibank Tanzania Limited, Commercial Bank (T) Limited, Covenant Bank for Women Tanzania Limited, CRDB Bank PLC, DCB Commercial Bank PLC, Diamond Trust Bank (T) Limited, Ecobank Tanzania Limited, Efatha Bank Limited, EFC Tanzania M.F.C Limited, Equity Bank Tanzania Limited, Exim Bank Tanzania Limited, FBME Bank Tanzania Limited, FINCA (T) M.F.C Limited, First National Bank Tanzania Limited, Habib African Bank, Hakika Microfinance Bank Limited, I & M Bank Tanzania Limited, International Commercial Bank (T) Limited, Kagera Farmers' Cooperative Bank Limited, KCB Bank Tanzania Limited, Kilimanjaro Cooperative Bank Limited, Letshego (Advans) Bank Tanzania Limited, Maendeleo Bank PLC, Mbinga Community Bank Limited, Meru Community Bank Limited, Mkombozi Commercial Bank PLC, Mufindi Commercial Bank PLC, Mwalimu Commercial Bank PLC, Mwangi Rural Community Bank Limited, National Microfinance Bank (T) PLC., NBC Limited, NIC Bank Tanzania Limited, Njombe Community Bank Limited, Peoples Bank of Zanzibar, Stanbic Bank (T) Limited, Standard Chartered Bank (T) Limited, Tandahimba Community Bank Limited, Tanzania Agricultural Development Bank, Tanzania Postal Bank, Tanzania Women's Bank Plc, TIB Corporate Bank Limited, TIB Development Bank Limited, Twiga Bancorp Limited, UBL Bank Tanzania Limited, Uchumi Commercial Bank Limited, United Bank for Africa Tanzania Limited, Vision Fund Tanzania M.F.C Limited である。

⁽²⁶⁾ Bank of Tanzania [2017], *Tanzania Financial Stability Report*, March, p. 10.

⁽²⁷⁾ 2016年12月の数値。Bank of Tanzania [2016], Directorate of Banking Supervision, *Annual Report 2016*, p. 2.

⁽²⁸⁾ 2016年12月の数値。Bank of Tanzania [2016], Directorate of Banking Supervision, *Annual Report 2016*, p. 2.

⁽²⁹⁾ 2016年12月の数値。Bank of Tanzania [2016], Directorate of Banking Supervision, *Annual Report 2016*, p. 11.

⁽³⁰⁾ 2017年9月の数値。Bank of Tanzania [2017], *Economic Bulletin for the Quarter Ending September 2017*, Vol. 49, No. 3, p. 26. IMF カントリーレポートに掲載されているマネタリーサーベイからも中央銀行保有の外国資産についての情報を知ることができる (International Monetary Fund [2016], *IMF Country Report No. 16/253*, July, p. 36)。2015年9月において、中央銀行の保有している外国資産は7兆2,620億タンザニアシリングである。商業銀行の保有する外国資産は1兆3,980億タンザニアシリングである。数値はネットレベルである。

⁽³¹⁾ Bank of Tanzania [2017], *Economic Bulletin for the Quarter Ending September 2017*, Vol. 49, No. 3, p. 47.

次に、商業銀行の資産構造と負債構造を見ていこう。資産構造において、先ず着目したいのは、国内資産と外国資産を保有していることと、資産項目の中で貸付が一番に多いことである⁽³⁴⁾。貸付は国内資産のものである。具体的には、2017年9月において、商業銀行資産全体は30兆9,706億7,030万タンザニアシリングである。商業銀行資産全体に占める国内資産の割合は89.8%であり、外国資産の占める割合は4.7%である。国内資産は外国資産の約19.1倍である。国内資産のうち、最大の項目を占めているのは、貸付である。貸付額は2017年9月に16兆7,920億5,950万タンザニアシリングである。商業銀行資産全体に占める割合は54.2%である。貸付は商業銀行資産全体のおよそ半分を占めていることになる。商業銀行の国内資産の中身は、タンザニア中央銀行、その他金融機関、中央政府、公的非金融機関、州・地方政府、民間部門、その他資産に分けることができる⁽³⁵⁾。これらの中で、民間部門は14兆7,402億1,850万タンザニアシリングである(2017年9月時点)。商業銀行保有の国内資産全体の49.9%を占めている。同様に中央政府は5,430億8,130万タンザニアシリングであり、商業銀行保有の国内資産全体の18.4%を占めている。民間部門への貸付の重要性を確認できる。

負債・資本構造について見ていこう⁽³⁶⁾。負債・資本全体は、2017年9月において、30兆9,706億7,030万タンザニアシリングである。負債・資本全体に占める最大の項目は預金である。預金は18兆5,013億1,510万タンザニアシリングであり、負債・資本全体の59.7%を占めている。資本勘定は4兆5,502億5,510万タンザニアシリングである。負債・資本全体の14.7%を占めている。商業銀行負債の預金について、預金構造を見てみよう⁽³⁷⁾。2017年9月に預金額は19兆9,146億8,340万タンザニアシリングである。預金の出し手は、中央政府、州・地方政府、その他の金融機関、公的非金融機関、その他の居住者、その他の預金金融機関、外国居住者に分けることができる。これらの中で、「その他の居住者」は個人を指している。預金全体の中で、最大の項目を占めているのは個人の預金である。個人の預金は15兆5,487億3,360万タンザニアシリングであり、預金全体の78.1%を占めている。また預金は本国通貨と外国通貨に分かれている。2017年9月において、本国通貨は13兆4,128億7,020万タンザニアシリング、外国通貨は6兆5,018億1,320万タンザニアシ

³² Bank of Tanzania [2016], Directorate of Banking Supervision, *Annual Report 2016*, p. 3. Hyden and Karlstrom [1993] は以下のように述べている。「しかしながら、人口の大部分は、依然として農業に従事し、金融経済の外に置かれている」(Hyden and Karlstrom [1993], p. 1396)。Christiaensen and Pan [2012] は次のように述べている。「人々は、不労所得を贈物と同じように、衣類、アルコール、タバコ、移動、コミュニケーションに使う可能性がある。一方、彼らは稼いだ所得を食物と教育への投資に使う可能性がある」(Christiaensen and Pan [2012], p. 23)。また Kweka and Fox [2011] は、「家計企業は主要な生計手段として、タンザニア経済において、ますます重要な役割を持つ」としている(Kweka and Fox [2011], p. 49)。さらに Ellis and Mdoe [2003] は、「家族もしくは家計のレベルにおいて、上昇する所得は、以下の点のような累積的な過程である。資産形成の能力を要求し、農家と非農家の活動を多様にさせる」としている(Ellis and Mdoe [2003], p. 1381)。

³³ Bank of Tanzania [2016], Directorate of Banking Supervision, *Annual Report 2016*, p. 3.

³⁴ Bank of Tanzania [2017], *Economic Bulletin for the Quarter Ending September 2017*, Vol. 49, No. 3, p. 50.

³⁵ Bank of Tanzania [2017], *Economic Bulletin for the Quarter Ending September 2017*, Vol. 49, No. 3, p. 53.

³⁶ Bank of Tanzania [2017], *Economic Bulletin for the Quarter Ending September 2017*, Vol. 49, No. 3, p. 51.

³⁷ Bank of Tanzania [2017], *Economic Bulletin for the Quarter Ending September 2017*, Vol. 49, No. 3, p. 56.

リングである。本国通貨の預金が多いものの、外国通貨の預金も多い。タンザニアの金融市場を考察する上で、外国通貨の預金の存在の重要性を指摘できる。

上記内容を大胆に要約すれば、タンザニアの商業銀行は、個人から預金を受け入れ、民間部門に貸付を行っている。それでは次に、商業銀行の貸付について検証しよう⁽³⁸⁾。その際に商業銀行は、タンザニアの資金需要主体に対して、十分な貸付を実施しているのかについても考えたい。表2はタンザニアの産業構造について、名目GDPの構成比及び名目GDPの変化分に対する寄与度について示している⁽³⁹⁾。表2から、規模レベルでは、農業が1番に大きく、名目GDP全体の31.5%を占めている。2番目は建設業であり、同様に14.8%を占めている⁽⁴⁰⁾。また寄与度では、1番目は農業である(20.2%)。2番目は建設業である(11.5%)。そして3番目は卸売業・小売業・飲食業・宿泊業である(8.3%)。タンザニア経済の資金需要は、農業、建設業と卸売業に存在していると考えられる。商業銀行は上記の資金重要な存在する産業に十分に貸付を行っているのだろうか。このことを次に検証しよう。表3は、タンザニアの商業銀行貸付について検証したものである。表の上段部分には、名目GDP全体に占める各産業の割合を掲載している。表の中段部分には、商業銀行貸付全体に占める各産業への貸付の割合を掲載している。そして表の下段部分には、上段と中段の表を用いて、商業銀行貸付の各産業への貸付の有無を検証している。例えば、商業銀行貸付全体に占める各産業の割合が、名目GDP全体に占める各産業の割合よりも大きければ、下段の表に「○」を記入している。商業銀行は製造業に対して十分な貸付を実施している⁽⁴¹⁾。開発経済学の世界では、製造業は長期的な経済成長を達成する上で重要な産業として知られている。製造業の進展により、雇用の確保や輸出による外貨の獲得も期待できる。タンザニアの製造業の進展については、名目GDP構成比に占める割合の点から見てみると、2000年には9.4%であったが、2008年には7.5%、そして2015年は5.7%となっている⁽⁴²⁾。また2017年時点では8.3%に上昇している。このようにタンザニアでは製造業の進展が見られる。また表3から分かることは、スーパーマーケットの建設が

38) 商業銀行貸付全体に占める外国通貨での貸付の割合は37.7%である (International Monetary Fund [2016], *IMF Country Report No. 16/253*, July, p. 38)。数値は2015年12月。

39) Shkaratan [2012]は、「タンザニアのエネギー部門は長い間、主要な懸念を持っている」としている (Shkaratan [2012], p. 1)。Carlitz [2017]は以下のように述べている。「タンザニアの水道部門に焦点を当てるならば、私は最初に水道部門における中央政府から地方政府への資金の分布を描きたい」 (Carlitz [2017], p. 16)。「地方に焦点を当てたこの論文は、持続可能な水道供給を促進するための戦略に関する文献に重要な貢献をする」 (Carlitz [2017], p. 17)。

40) 2017年の数値では、規模において、最も大きい産業は農業であり、名目GDP全体の31.3%を占めている。同様に2番目は建設業であり、名目GDP全体の13.3%を占めている (African Development Bank Group, Africa Union and Economic Commission for Africa [2019], *African Statistics Yearbook 2019*, p. 415)。Iimi, Humphreys and Melibaeva [2015a]は以下のように記述している。「タンザニアの道路ネットワークは地域標準によって比較的に良い状態である」 (Iimi, Humphreys and Melibaeva [2015a], p. 5)。

41) Murphy [2002]は、タンザニアの製造業について、以下のように記述している。「この論文は、タンザニアの製造業部門におけるイノベーションに影響する社会的ないくつかの要因を描いている。これらの要因の考察において、以下のことが明らかである。イノベーションのための企業の能力は利用可能な社会構造（例えば制度）の質だけでなく、イノベーションは、社会の能力もしくは企業内の変化を管理するエージェントの能力によって引き出される」 (Murphy [2002], p. 614)。

表2 名目 GDP の変化分に対する寄与度 (単位: %)

	名目 GDP 全体に占める割合	2008年と2015年を比較した場合の名目 GDP の変化分に対する寄与度
農業・狩猟業・林業・漁業	31.5	20.2
鉱業・採石業	4.4	3.2
製造業	5.7	3.0
電気業・ガス業・水道業	1.5	0.9
建設業	14.8	11.5
卸売業・小売業・飲食業・宿泊業	12.7	8.3
金融業・保険業・不動産業	7.4	2.6
輸送業・通信業	6.8	3.6
行政・国防関連	10.9	8.2
教育関連	2.8	1.6
健康・社会福祉関連	1.5	0.9
その他	1.3	0.7
帰属サービス手数料 (控除項目)	-1.2	-0.9
名目 GDP	100.0	63.6
生産・輸入品に課される税 (控除補助金) (加算項目)	8.5	5.7

(注) 「名目 GDP 全体に占める割合」は2015年。本来であれば、2017年の数値を利用したい。しかしながら、以下の理由により、2015年の数値を利用することにした。African Development Bank Group, Africa Union and Economic Commission for Africa [2019], *African Statistics Yearbook 2019*, p. 415では、これまでの統計資料では存在していた「帰属サービス手数料 (控除項目)」等の欄に変更が生じている。

(出所) African Development Bank Group, Africa Union and Economic Commission for Africa [2017], *African Statistics Yearbook 2017*, p. 344より作成。

盛んであることと、インフラの整備に力を入れていることである。

さらに、タンザニアの商業銀行の財務指標について述べておこう⁽⁴³⁾。収益性を示す ROA は、2015年12月において2.6%である。商業銀行の収益性は高い。また安定性を示す自己資本比率は、同様に2015年12月において18.9%である。商業銀行の安定性は高い。最後に、信用情報の扱いについて指摘しておきたい。各金融機関は信用情報機関にデータを提出している。2016年12月31日時点において、95%の商業銀行はデータを提出している。同様に開発金融機関は50%、マイクロファイナンス銀行では50%である。コミュニティ銀行は67%であり、モーゲージ会社は100%である。商業銀行の提出状況は良いと言える。信用情報の中身は個人に関するものである⁽⁴⁴⁾。

(42) 2000年の数値は African Development Bank Group, Africa Union and Economic Commission for Africa [2009], *African Statistics Yearbook 2009*, p. 355, 2008年と2015年の数値は African Development Bank Group, Africa Union and Economic Commission for Africa [2017], *African Statistics Yearbook 2017*, p. 344を利用した。2017年時点での名目 GDP 全体に占める製造業の割合は8.3%である (African Development Bank Group, Africa Union and Economic Commission for Africa [2019], *African Statistics Yearbook 2019*, p. 415)。

(43) International Monetary Fund [2016], *IMF Country Report No. 16/253*, July, p. 38.

(44) Bank of Tanzania [2016], Directorate of Banking Supervision, *Annual Report 2016*, p. 33.

表3 各産業への商業銀行貸付の動向と検証（単位：％）

名目 GDP 構成比①	2013	2014	2015	2016	2017
農業・林業・漁業	29.0	28.0	29.2	29.9	31.3
鉱業・採掘業	4.6	4.1	4.7	5.3	4.8
製造業	9.8	9.9	8.6	8.5	8.3
電気業・ガス業・水道業	1.3	1.6	1.4	0.9	0.9
建設業	11.7	11.2	12.1	12.3	13.3
卸売業・小売業・飲食業・宿泊業	12.4	12.3	11.8	11.5	11.4
名目 GDP 全体	100.0	100.0	10.0	100.0	100.0

貸付構成比②	2013	2014	2015	2016	2017
農業・林業・漁業	10.0	9.3	8.3	7.4	7.3
鉱業・採掘業	1.0	1.4	1.8	2.1	1.8
製造業	11.4	11.5	11.2	10.2	11.2
電気業・ガス業・水道業	24.6	5.2	5.3	5.7	4.1
建設業	5.1	5.5	4.9	4.6	5.1
卸売業・小売業・飲食業・宿泊業	24.9	25.5	23.8	24.2	24.4
貸付残高全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②のほうが大きい場合は○を記入	2013	2014	2015	2016	2017
農業・林業・漁業	×	×	×	×	×
鉱業・採掘業	×	×	×	×	×
製造業	○	○	○	○	○
電気業・ガス業・水道業	○	○	○	○	○
建設業	×	×	×	×	×
卸売業・小売業・飲食業・宿泊業	○	○	○	○	○

(注) 貸付の数値について、2017年は9月、2013年から2016年は年末。産業の区分表示については、アフリカ開発銀行の分類を採用した。タンザニア中央銀行の分類は以下の通りである。

「農業・狩猟業・林業」, 「漁業」, 「鉱業・採石業」, 「製造業」, 「建物・建設業」, 「Trade (卸売業・小売業 [貿易取引を含む])」, 「宿泊業・飲食業」, 「電気業」, 「ガス業」, 「水道業」である。タンザニア中央銀行の分類では、「Trade (卸売業及び小売業 [貿易取引も含む])」と「宿泊業・飲食業」が分かれているので、合計して計算した。また同様に、「農業・狩猟業・林業」と「漁業」を合計した。「電気業」, 「ガス業」と「水道業」も合計して計算している。

(出所) 名目GDPの数値は African Development Bank Group, Africa Union and Economic Commission for Africa [2019], *African Statistics Yearbook 2019*, p. 415より作成。貸付の数値は Bank of Tanzania [2017], *Economic Bulletin for the Quarter Ending September 2017*, Vol. 49, No. 3, p. 55より作成。

第3章 本国通貨金利と外国通貨金利との関連について

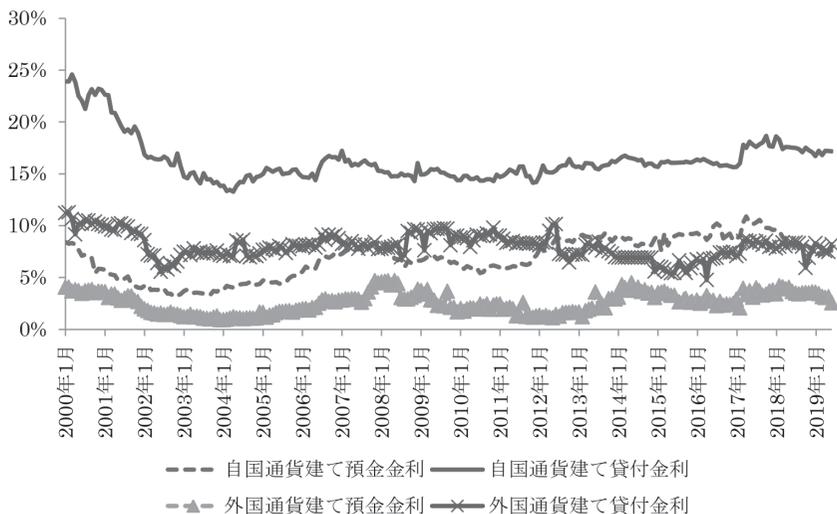
第2章で指摘したように、タンザニアの金融市場の特徴は、本国通貨と外国通貨の両方が流通

していることである。この第3章では、預金と貸付の両面における本国通貨と外国通貨の金利の構造に焦点を当てたい。本国通貨と外国通貨の預金金利は、どのような関係にあるのだろうか。また同様に本国通貨と外国通貨の貸付金利は、どのような関係にあるのだろうか。金利裁定取引が働く構造になっているのだろうか。まず、本国通貨と外国通貨の預金金利と貸付金利の推移を眺めてみよう（図3参照）。

預金金利から見ていこう。本国通貨の預金金利は外国通貨のそれよりも高い。2019年5月に本国通貨の預金金利は7.62%であり、外国通貨は2.56%である。貸付金利についても同様に見ていこう。預金金利の場合と同様に、本国通貨の貸付金利は外国通貨のそれよりも高い。2019年5月に本国通貨の貸付金利は17.17%であり、外国通貨は8.20%である。それでは、本国通貨と外国通貨の預金金利と貸付金利の関連について、統計的に迫ることにしよう。金利データは、タンザニア中央銀行から入手した、時系列データである。期間は2000年1月から2019年5月の月次データである。表4は、本国通貨と外国通貨の預金金利と外国金利の合計4つの数値について、単位根検定を行ったものである。単位根検定は、ADFテスト、PPテストの2種類を実施した。単位根検定は、レベルと1回階差について、それぞれ、定数項を含むものと、定数項に加えトレンドを含むものの2つを行った。表4から分かるように、本国通貨の預金金利と外国通貨の預金金利については、レベルにおいて、単位根の存在を多くの場合で棄却できなかった。1回階差において、単位根の存在を1%水準で棄却することができた。よって以下では、本国通貨と外国通貨の預金金利の変数はI(1)として考察を進めることにする。一方、本国通貨の貸付金利と外国通貨の貸付金利については、レベルにおいて、単位根の存在を多くの場合で棄却することができた。よって以下では、本国通貨と外国通貨の貸付金利の変数はI(0)として考察を行う。

次に、本国通貨と外国通貨の預金金利の関連、そして本国通貨と外国通貨の貸付金利の関連につ

図3 通貨建て別に見た預金金利と貸付金利の推移（単位：%）



(注) 預金金利は定期預金。

(出所) Bank of Tanzania, *Interest Rates* より作成。

いて、グレンジャー因果性テストによる検証を行う。表5は、預金金利と貸付金利の両方において、本国通貨と外国通貨の関連を見たものである。預金金利から見ていこう。グレンジャー因果性テストから、預金金利においては、本国通貨が外国通貨に対して5%水準で有意に影響を与えている。一方、外国通貨は本国通貨に影響を与えていない。結果の解釈としては、タンザニアの金融市場の効率性は低く、外国通貨から本国通貨への影響があらわれていない。外国通貨の金利は、世界基準で決定される。貸付金利を見ていこう。預金金利の構造とは異なり、本国通貨から外国通貨そして外国通貨から本国通貨の両方の場合において影響を与えていない。解釈としては、預金金利のところで指摘した金融市場の効率性が低いと考えられる。さらには、タンザニア中央銀行は貸付金利を規制し、金融政策の際に、貸付金利を変更しているのではないかと推測する。

ここで追加的な検証として、本国通貨と外国通貨の預金金利に関して、共和分の関係があるかどうかを確認したい。本国通貨の預金金利と外国通貨の預金金利は、長期的には安定した関係にある

表4 単位根検定の結果

	ADF テスト		PP テスト	
	トレンド有り	トレンド無し	トレンド有り	トレンド無し
本国通貨建て預金金利				
レベル	- 3.0571	- 1.2855	- 3.2193 *	- 1.4681
1 回階差	- 17.8342 ***	- 17.8335 ***	- 17.6598 ***	- 17.6555 ***
外国通貨建て預金金利				
レベル	- 2.7524	- 2.4017	- 3.2729 *	- 2.9721 **
1 回階差	- 22.4353 ***	- 22.4527 ***	- 22.7254 ***	- 22.6135 ***
本国通貨建て貸付金利				
レベル	- 3.4072 *	- 3.8056 ***	- 3.3395 *	- 3.7368 ***
1 回階差	- 17.2256 ***	- 16.8918 ***	- 17.3888 ***	- 16.8918 ***
外国通貨建て貸付金利				
レベル	- 3.8905 **	- 3.9212 ***	- 4.2032 ***	- 4.0416 ***
1 回階差	- 8.9691 ***	- 8.9370 ***	- 21.1195 ***	- 20.7265 ***

(出所) ***は1%水準, **は5%水準, *は10%水準で有意。本国通貨建て金利と外国通貨建て金利は、2000年1月から2019年5月までの月次データである。ADFテストにおけるラグの長さは赤池情報量基準による。またPPテストのラグの長さはNewey-Westによる。

表5 グレンジャー因果性テストの結果

因果関係	F 値	P 値
本国通貨建て預金金利 ⇒ 外国通貨建て預金金利	2.0697 **	0.0205
外国通貨建て預金金利 ⇒ 本国通貨建て預金金利	1.5417	0.1120
本国通貨建て貸付金利 ⇒ 外国通貨建て貸付金利	0.4988	0.9138
外国通貨建て貸付金利 ⇒ 本国通貨建て貸付金利	0.8752	0.5732

(注) ***は1%水準, **は5%水準, *は10%水準で有意。ラグの長さは12期とした。本国通貨建て金利と外国通貨建て金利の数値は、2000年1月から2019年5月までの月次データである。

表6 共和分検定の結果

預金金利	従属変数	独立変数		観測数
		自国通貨建て預金金利	外国通貨建て預金金利	
	自国通貨建て預金金利	—	- 1.3095	230
	外国通貨建て預金金利	- 2.2989	—	230

(注) ***は1%水準, **は5%水準, *は10%水準で有意。自国通貨建て金利と外国通貨建て金利の数値は、2000年1月から2019年5月までの月次データである。アングル・グレンジャーの共和分検定(EG test)を用いた。残差のADF検定では、トレンド無しとし、ラグは2期とした。臨界値はDavidson and MacKinnon [1993]のtable 20.2による。

のだろうか。自国通貨と外国通貨の預金金利の変数は、先程の単位根検定で示したように、I(1)である。グレンジャー因果性テストの結果から、自国通貨から外国通貨へのグレンジャーの意味での因果関係を見た。表6は、アングル・グレンジャーの共和分検定(EG test)の結果を示している。まず、自国通貨の預金金利を従属変数に、そして外国通貨の預金金利を独立変数にして回帰分析を行った。次に、従属変数と独立変数を入れ替えて、同様に回帰分析を実施した。次に、上記それぞれの回帰分析から得られた残差について、単位根検定であるADFテストを行った。残差がI(0)であれば、自国通貨の預金金利と外国通貨の預金金利は共和分関係にあることになる。すなわち長期的には安定した関係にあることにある。通常のADFテストではないので、t分布表は利用できない。表6の共和分検定では、Davidson and MacKinnon[1993]の表20.2の臨界値を用いた。結果は、自国通貨の預金金利と外国通貨の預金金利との間には共和分関係はない。

結び

本論文では、タンザニアの金融市場の構造と特徴について考察した。タンザニア中央銀行は、現在、金融政策において、金利面でのコントロールに力を入れた金融システム改革を実施している。最後に本論文で得た結論をまとめたい。

第1に、貯蓄・投資バランスから、国内総貯蓄は国内総投資よりも小さいことが分かる。この差額は経常収支赤字に対応する。資本収支の動向から見てタンザニアでは直接投資の流入が国内経済に大きな影響を与えている。外国居住者はタンザニアシリングの為替相場の減価傾向も手伝う形で、直接投資の収益性の高さから資本を流入させている。

第2に、タンザニアにおいて、自国通貨と外国通貨の両方が流通している。このことにより、中央銀行のバランスシートには資産項目として多くの外国通貨が計上されている。商業銀行は、自国通貨と外国通貨の両方の通貨で貸付を行っている。商業銀行のバランスシート構造において、民間部門への信用供与が最大の項目になっている。名目GDP構成比との関連から、商業銀行は製造業に十分な資金を供給している。タンザニアでは近年において製造業の進展が見られる。

第3に、自国通貨の預金金利と外国通貨の預金金利との間において、自国通貨から外国通貨への影響が認められる。但し、長期的に安定した関係は認められなかった。外国通貨の預金金利は世界金利と連動している。タンザニアの金融市場の効率性に課題があることを示唆している。

参考文献

- 河合正弘 [1994] 『国際金融論』 東京大学出版会。
- 日本銀行国際収支統計研究会 [1996] 『国際収支のみかた』 日本信用調査株式会社。
- 日本銀行国際収支統計研究会 [2000] 『入門国際収支—統計の見方・使い方と実践の活用』 東洋経済新報社。
- Agrawal, N., Z. Ahmed, M. Mered and R. Nord [1993], "Structural adjustment, economic performance, and aid dependency in Tanzania," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS1204, October.
- Ahmed, S. A., N. S. Diffenbaugh, T. W. Hertel and W. J. Martin [2012], "Agriculture and trade opportunities for Tanzania: Past volatility and future climate change," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS6132, July.
- Baffes, J., V. Kshirsagar and D. Mitchell [2015], "What drives local food prices? Evidence from the Tanzanian maize market," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS7338, June.
- Bagachwa, M. S. D. and A. Naho [1995], "Estimating the second economy in Tanzania," *World Development*, Vol. 23, No. 8, pp. 1387-1399.
- Bailey, M. [1975], "Chinese aid in action: Building the Tanzania-Zambia railway," *World Development*, Vol. 3, No. 7 and 8, pp. 587-593.
- Bandara, A., R. Dehejia and S. Lavie-Rouse [2015], "The impact of income and non-income shocks on child labor: Evidence from a panel survey of Tanzania," *World Development*, Vol. 67, pp. 218-237.
- Barker, J. [1985], "Gaps in the debates about agriculture in Senegal, Tanzania and Mozambique," *World Development*, Vol. 13, No. 1, pp. 59-76.
- Belghith, N. B. H., M. A. Lopera, A. E. Ndip and W. Karamba [2018], "Analysis of the mismatch between Tanzania household budget survey and national panel survey data in poverty and inequality levels and trends," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS8361, March.
- Carlitz, R. [2017], "Money flows, water trickles: Understanding patterns of decentralized water provision in Tanzania," *World Development*, Vol. 93, pp. 16-30.
- Christiaensen, L. and L. Pan [2012], "On the fungibility of spending and earnings: Evidence from rural China and Tanzania," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS6298, December.
- Collier, P. and J. W. Gunning [1991], "Money creation and financial liberalization in a socialist banking system: Tanzania 1983-88," *World Development*, Vol. 19, No. 5, pp. 553-538.
- Costello, M. [1994], "Market and state: Evaluating Tanzania's program of state-led industrialization," *World Development*, Vol. 22, No. 10, pp. 1511-1520.
- Cull, R. and C. P. Spreng [2008], "Pursuing efficiency while maintaining outreach: Bank privatization in Tanzania," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS4804, December.
- Cull, R. and C. P. Spreng [2011], "Pursuing efficiency while maintaining outreach: Bank privatization in Tanzania," *Journal of Development Economics*, 94, pp. 254-261.
- Davidson, R. and J. MacKinnon [1993], *Estimation and Inference in Econometrics*, Oxford University Press.
- Demombynes, G. and J. G. Hoogeveen [2004], "Growth, inequality and simulated poverty paths for Tanzania, 1992-2002," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS3432, October.
- Dercon, S., J. D. Weerdt, T. Bold and A. Pankhurst [2006], "Group-based funeral insurance in Ethiopia and Tanzania," *World development*, Vol. 34, No. 4, pp. 685-703.
- Dercon, S. [1998], "Wealth, risk and activity choice: Cattle in Western Tanzania," *Journal of Development Economics*, Vol. 55, pp. 1-42.
- Diao, X., J. Kweka and M. McMillan [2018], "Small firms, structural change and labor productivity growth in Africa: Evidence from Tanzania," *World Development*, 105, pp. 400-415.

- Due, J. M. [1993]. "Liberalization and privatization in Tanzania and Zambia," *World Development*, Vol. 21, No. 12, pp. 1981–1988.
- Ellis, F. and N. Mdoe [2003]. "Livelihoods and rural poverty reduction in Tanzania," *World Development*, Vol. 31, No. 8, pp. 1367–1384.
- Ellis, F. [1982]. "Agriculture price policy in Tanzania," *World Development*, Vol. 10, No. 4, pp. 263–283.
- Evans, D. K., B. Holtemeyer and K. Kosec [2016]. "Cash transfers and health: Evidence from Tanzania," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS7882, November.
- Evans, D. K., B. Holtemeyer and K. Kosec [2018]. "Cash transfers increase trust in local government," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS8333, February.
- Ferreira, M. L. [1996]. "Poverty and inequality during structural adjustment in rural Tanzania," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS1641, August.
- Gerrard, C. D. and T. Roe [1983]. "Government intervention in food grain markets," *Journal of Development Economics*, 12, pp. 109–132.
- Gulhati, R. and U. Sekhar [1982]. "Industrial strategy for late starters: The experience of Kenya, Tanzania and Zambia," *World Development*, Vol. 10, No. 11, pp. 949–972.
- Hassine, N. B. and A. Zeufack [2015]. "Inequality of outcomes and inequality of opportunity in Tanzania," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS7260, May.
- Higuchi, Y., E. P. Mhede and T. Sonobe [2019]. "Short- and medium-run impacts of management training: An experiment in Tanzania," *World Development*, 114, pp. 220–236.
- Hyden, G. and B. Karlstrom [1993]. "Structural adjustment as a policy process: The case of Tanzania," *World Development*, Vol. 21, No. 9, pp. 1395–1404.
- Imi, A., R. M. Humphreys and S. Melibaeva [2015a]. "Firms' locational choice and infrastructure development in Tanzania," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS7305, June.
- Imi, A., R. M. Humphreys and S. Melibaeva [2015b]. "Crop choice and infrastructure accessibility in Tanzania," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS7306, June.
- Islam, A., S. Muzi and J. L. R. Meza [2016]. "Does mobile money use increase firms' investment? Evidence from enterprise surveys in Kenya, Uganda, and Tanzania," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS7890, November.
- Jaffee, S. [1994]. "Private trader response to market liberalization in Tanzania's cashew nut industry," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS1277, March.
- Kaufmann, D. and S. A. O'Connell [1999]. "The macroeconomics of delayed exchange-rate unification," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS2060, February.
- Kweka, J. and L. Fox [2011]. "The household enterprise sector in Tanzania: Why it matters and who cares," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS5882, November.
- Letta, M., P. Montalbano and R. S. J. Tol [2018]. "Temperature shocks, short-term growth and poverty threshold: Evidence from rural Tanzania," *World development*, 112, pp. 13–32.
- Levine, A. [2002]. "Convergence or conveniences? International conservation NGOs and development assistance in Tanzania," *World Development*, Vol. 30, No. 6, pp. 1043–1055.
- Mahdi, S. [2012]. "Quality contingent contracts: evidence from Tanzania's coffee market," World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS6171, August.
- Maro, P. [1990]. "The impact of decentralization on spatial equity and rural development in Tanzania," *World Development*, Vol. 18, No. 5, pp. 673–693.
- Masaki, T. [2018]. "The impact of intergovernmental transfers on local revenue generation in Sub-Saharan

- Africa: Evidence from Tanzania,” *World Development*, 106, pp. 173–186.
- Morrissey, O. [1995], “Political commitment, institutional capacity and tax policy reform in Tanzania,” *World development*, Vol. 23, No. 4, pp. 637–649.
- Murphy, J. [2002], “Networks, trust, and innovation in Tanzania’s manufacturing sector,” *World Development*, Vol. 30, No. 4, pp. 591–619.
- Neerso, P. [1974], “Selected aspects of Tanzania’s policies on foreign investment,” *World Development*, Vol. 2, No. 2, February, pp. 139–144.
- Nyoni, T. [1998], “Foreign aid and economic performance in Tanzania,” *World Development*, Vol. 26, No. 7, pp. 1235–1240.
- Putterman, L. [1995], “Economic reform and smallholder agriculture in Tanzania: A discussion of recent market liberalization, road rehabilitation, and technology dissemination efforts,” *World Development*, Vol. 23, No. 2, pp. 311–326.
- Rollo, V. [2012], “Determinants of Tanzanian export prices,” World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS6225, October.
- Rutayisire, L. [1987], “Measurement of government budget deficit and fiscal stance in a less developed economy: The case of Tanzania, 1966–84,” *World Development*, Vol. 15, No. 10/11, pp. 1337–1351.
- Rwegasire, D. G. [1987], “Balance-of-payments adjustment in low-income developing countries: The experiences of Kenya and Tanzania in the 1970s,” *World Development*, Vol. 15, No. 10/11, pp. 1321–1335.
- Sepehri, A. [1992], “Balance of payments, output and prices in Tanzania,” *World Development*, Vol. 20, No. 2, pp. 289–320.
- Shkaratan, M. [2012], “Tanzania’s infrastructure,” World Bank, *Policy Research Working Paper*, WPS5962, February.
- Therkildsen, O. and J. Semboja [1992], “Short-term resource mobilization for recurrent financing of rural local governments in Tanzania,” *World Development*, Vol. 20, No. 8, pp. 1101–1113.
- Weaver, J. H. and E. Kronemmer [1981], “Tanzanian and African socialism,” *World development*, Vol. 9, No. 9/10, pp. 839–849.
- Whitworth, A. [1982], “Price control techniques in poor countries: The Tanzanian case,” *World Development*, Vol. 10, No. 6, pp. 475–488.
- Winter-Nelson, A. [2002], “Institutional adjustment and Transaction costs: product and inputs markets in the Tanzania coffee system,” *World Development*, Vol. 30, No. 4, pp. 561–574.